

# 関西経済レポート(4月号)

- ➡ 2月の鉱工業生産指数は3カ月ぶりの前月比マイナス。1-2月平均は10-12月平均比+2.3%と6期連続の増産。
- ➡ 3月の輸出額は前年比+3.1%と前月から減速。輸入額は同+20.0%と前月から大幅拡大。結果、純輸出額は2カ月ぶりの赤字となり、2013年度は2年連続の赤字となった。
- ➡ 3月の消費者態度指数は4カ月連続のマイナスで2011年9月に次ぐ低水準。景気ウォッチャー先行き判断DIも大幅悪化、幅広い業種で消費増税後の懸念が広がる。
- ➡ 3月の大型小売店販売は百貨店を中心に駆け込み需要の影響が顕著に表れている。
- ➡ 3月の新設住宅着工戸数は2カ月ぶりの前年比プラス。持家や分譲一戸建てを中心に駆け込み需要の反動減が本格化しているものの、貸家と分譲マンションは好調を維持。
- ➡ 3月の有効求人倍率は1.00倍と前月比横ばい、失業率も前月比横ばいを維持。
- ➡ 3月の公共工事請負金額は前年比2カ月ぶりのプラスも、前月比では3カ月連続のマイナス。2月の建設工事は22カ月連続の前年比プラスだが3カ月連続で減速。
- ➡ 3月の中国製造業PMIIは、春節の影響が解消し、幾分改善した。2014年1-3月期の実質GDP成長率は前年比+7.4%と前期から幾分減速した。

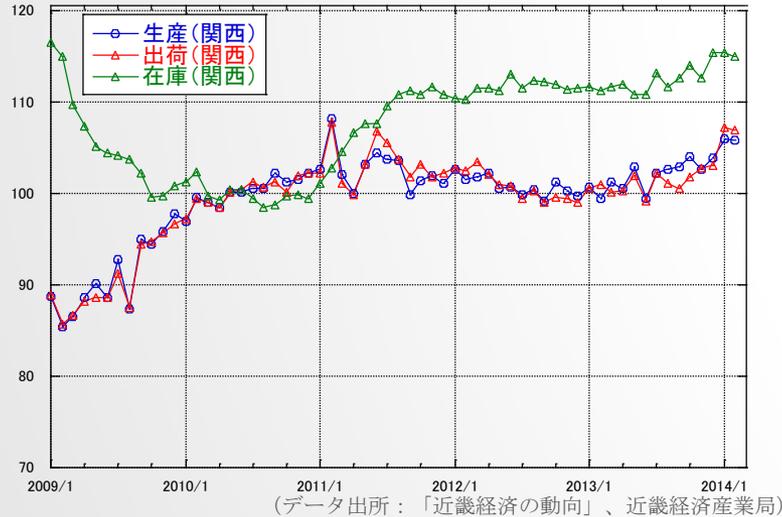
※「近畿」・「関西」は、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山の2府4県。  
鉱工業生産、大型小売店販売額のみ、福井を含む2府5県。

## ～目次～

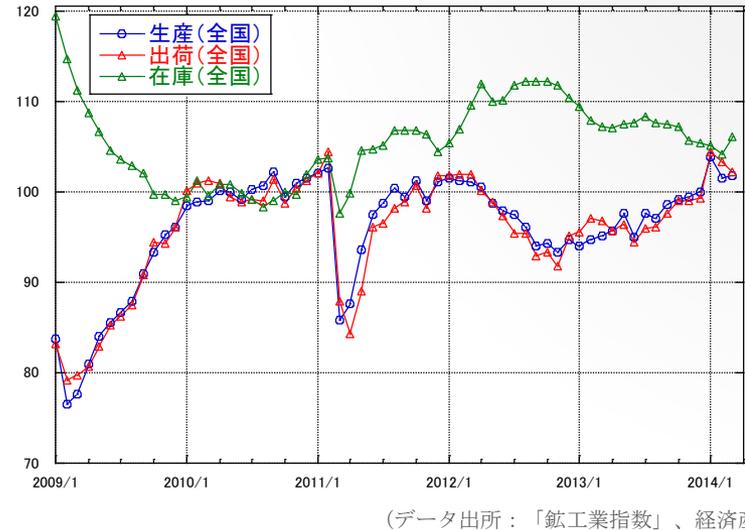
生産	1
輸出入	2
消費者センチメント	3
個人消費・住宅	4
雇用	5
公共投資	6
中国経済動向①	7
中国経済動向②	8

# ～生産～

鉱工業指数の推移(近畿・2014年2月まで), 2010年=100



鉱工業指数の推移(全国・2014年3月まで), 2010年=100

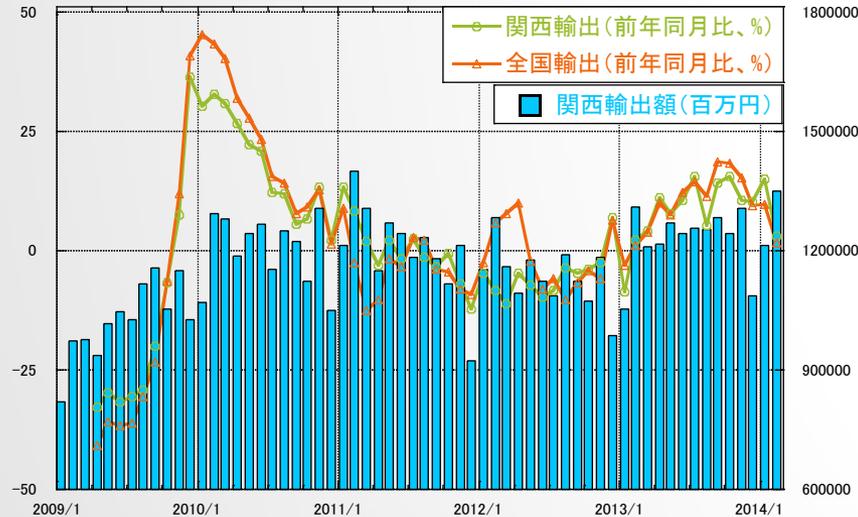


- 関西における2月の鉱工業生産指数(確報値: 季節調整済)を見ると、生産は105.8で前月比-0.2%と3カ月ぶりの下落。出荷は107.0で同-0.2%と5カ月ぶりの下落。在庫は115で同-0.4%と下落した。生産の1-2月平均は10-12月平均比+2.3%と6期連続の増産。
- 業種別に生産指数をみると、はん用・生産用・業務用機械(同-3.3%)、情報通信機械(同-15.0%)、金属製品(同-7.5%)等が下落した。一方、化学(除. 医薬品)(同+4.6%)、窯業・土石製品(同+3.8%)、プラスチック製品(同+4.7%)等が上昇した。
- 足下、関西の生産は一服しているが、3月は駆け込み需要も期待されるところから堅調な動きとなっている。

- 全国における3月の鉱工業生産指数(速報値、季節調整済)は101.8となり前月比+0.3%と2カ月ぶりのプラス。出荷は102.2で同-1.2%と2カ月連続の下落、在庫は106.1で同+1.8%と8カ月ぶりの増加。結果、生産は、1-3月平均は前期比+2.8%と5期連続の増産。また2013年度の生産指数は98.9と前年度比+3.2%上昇した。3年ぶりのプラス。
- 業種別にみると、輸送機械(同+3.1%)、電子部品・デバイス(同+5.5%)、窯業・土石製品(同+2.8%)等が上昇。一方、はん用・生産用・業務用機械(同-1.6%)、化学工業(除. 医薬品: 同-2.3%)、金属製品(同-2.6%)等が下落。
- 生産予測調査によると、4月の製造工業は前月比-1.4%と減少も、5月は同+0.1%と僅かに増産の見込み。消費増税後の生産は落ち込みが想定されるものの、5月にはその影響が薄れ、生産の持ち直しが予想される。

# ～輸出入～

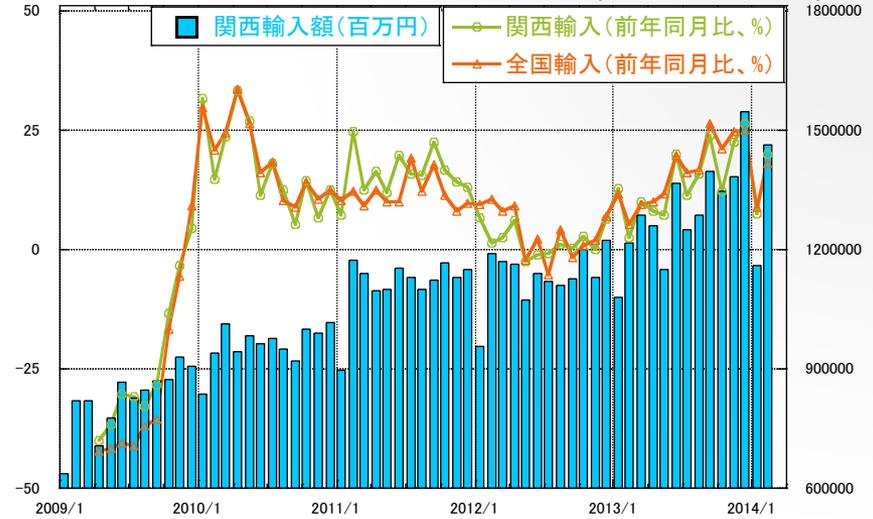
輸出動向 (右: 輸出額、左: 前年同月比) (2014年3月まで)



(データ出所: 「大阪税関貿易速報資料: 近畿圏」、大阪税関調査統計課)

- 関西3月の輸出額(速報値)は1兆3,519億円、前年同月比+3.1%と13カ月連続の増加。輸出の伸びは6カ月ぶりに1桁となった。
- 輸出は、鉱物性燃料(3月単月過去最高額)、鉄鋼、重電機器(過去最高額)を中心に増加している。
- 全国3月の輸出額(確定値)は6兆3,836億円、前年同月比+1.8%と13カ月連続の増加も、前月から伸びは大幅に減速した。結果、2013年度全国の輸出額は前年度比+10.8%と3年度ぶりの増加であった。
- 関西の輸出を地域別に見ると、中国(同-1.2%)向け輸出は13カ月ぶりのマイナスとなり、結果、アジア(前年同月比+3.6%)向けは前月(+14.6%)から大幅減速した。また、EU(同+0.8%)向けは増加も、米国(同-0.4%)向けは15カ月ぶりの減少となった。

輸入動向(右: 輸出額、左: 前年同月比) (2014年3月まで)

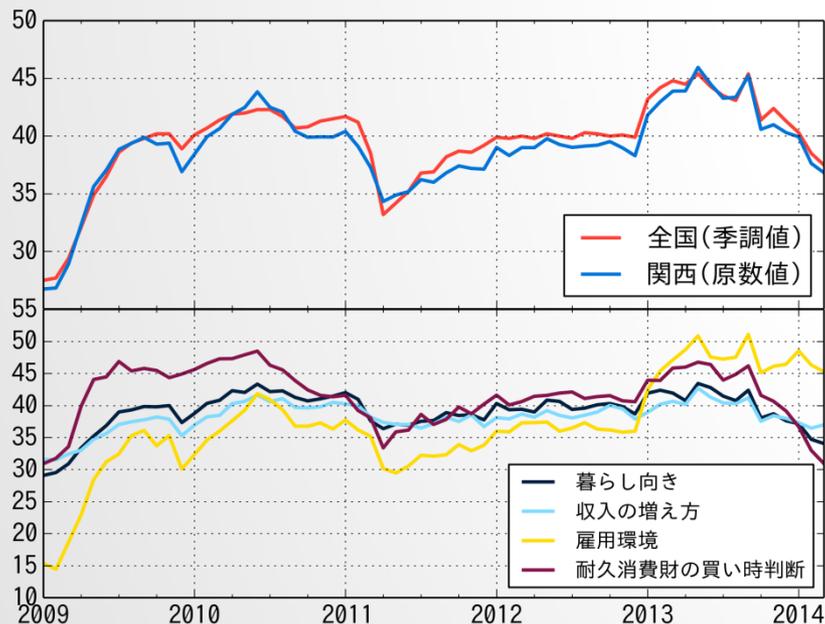


(データ出所: 「財務省貿易統計」、財務省)

- 関西3月の輸入額(速報値)は1兆4,625億円、前年同月比+20.0%と15カ月連続のプラス。前月から一転、再び20%以上の伸びを示した。
- 輸入は、天然ガス及び製造ガス、通信機、原油及び粗油(いずれも3月単月過去最高額)を中心に、大幅に増加している。
- 全国3月の輸入額(速報値)は7兆8,295億円、前年同月比+18.1%と17カ月連続の増加。2013年度全国の輸入は対前年度比+17.3%の増加であった。
- 結果、関西の純輸出額は-1,106億円と2カ月ぶりの赤字、全国は-1兆4,460億円と21カ月連続の赤字となった。2013年度については、-1兆円を超える貿易赤字の月数は6カ月あった。結果、関西は2年連続、全国は3年連続で貿易収支が赤字となった。

# ～消費者センチメント～

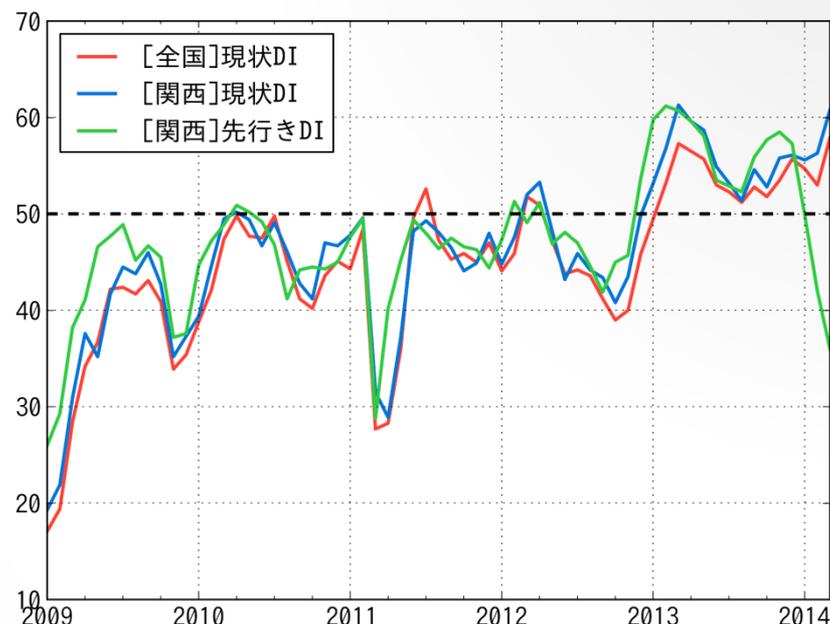
消費者態度指数(2014年3月まで)



(出所)内閣府「消費動向調査」(平成26年4月17日公表)

- 関西の3月の消費者態度指数(原数値)は前月比-0.8ポイント下落し36.9となった。4カ月連続のマイナス。2011年9月以来の低水準となった。
- 同指数の構成項目をみると、「暮らし向き」が同-0.7ポイントと4カ月連続のマイナス。「耐久消費財の買い時判断」は同-2.0と6カ月連続のマイナス、「雇用環境」は同-1.1ポイントと2カ月連続のマイナスだが、「収入の増え方」が同+0.6と4カ月ぶりにプラスに転じた。
- 2011年9月と比較すると、今回は景気回復を反映して雇用関連指標が高く、消費増税懸念を反映して耐久消費財の買い時判断指標が低くなっている。
- なお全国の3月の消費者態度指数(季節調整値)は37.5となり、同-1.0ポイントと4カ月連続で前月から悪化している。

景気ウォッチャー調査(2014年3月まで)

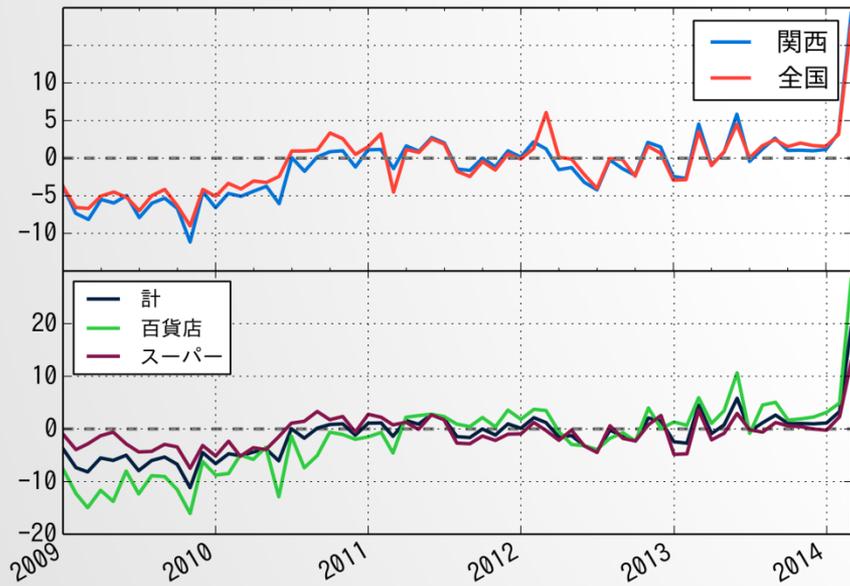


(出所)内閣府「景気ウォッチャー調査」(平成26年4月4日公表)

- 関西の3月の現状判断DIは前月比+4.5ポイントの60.8。乗用車の駆け込み需要が一服しつつあるものの、その他の品目についても駆け込みの動きが広がっていることから、2カ月連続の改善となった。
- 一方全国でも同様の動きがみられ、同+4.9ポイントの57.9と2カ月ぶりに改善している。
- 関西の先行き判断DIは同-6.0ポイントの36.0と、前月(同-7.9ポイント)から続いて悪化した。
- 全国の先行き判断DIも同-5.3ポイントの34.7となり、いずれも4カ月連続で悪化。
- 耐久消費財関連に限らず、幅広い業種で消費増税後の反動減の懸念が広がっている。

# ～個人消費・住宅～

大型小売店販売額(前年同月比:%、2014年3月まで)

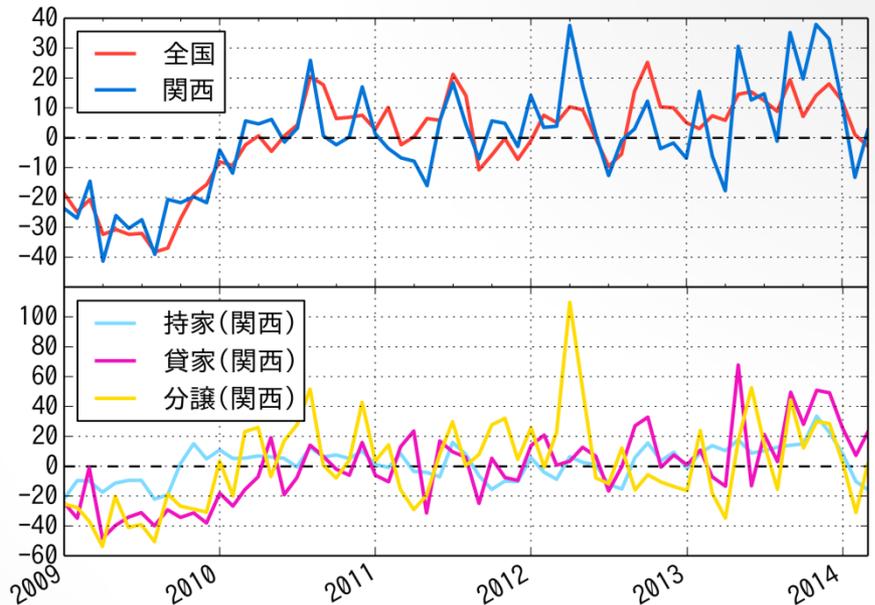


(注)福井県を含む。

(出所)経済産業省「商業動態統計」(平成26年4月28日公表)

- 関西の3月の大型小売店(百貨店+スーパー)の販売額(全店ベース)は、前年同月比+19.3%と8カ月連続のプラス。
- 百貨店も同+28.5%と8カ月連続のプラス。
- スーパーは同+12.9%と2カ月連続のプラス。
- なお全国でも、3月の大型小売店販売額(全店ベース)は同+17.0%と7カ月連続のプラスとなっている。
- 関西、全国ともに、3月の小売販売は百貨店を中心に駆け込み需要の影響が顕著に表れている。

新設住宅着工(前年同月比:%、2014年3月まで)

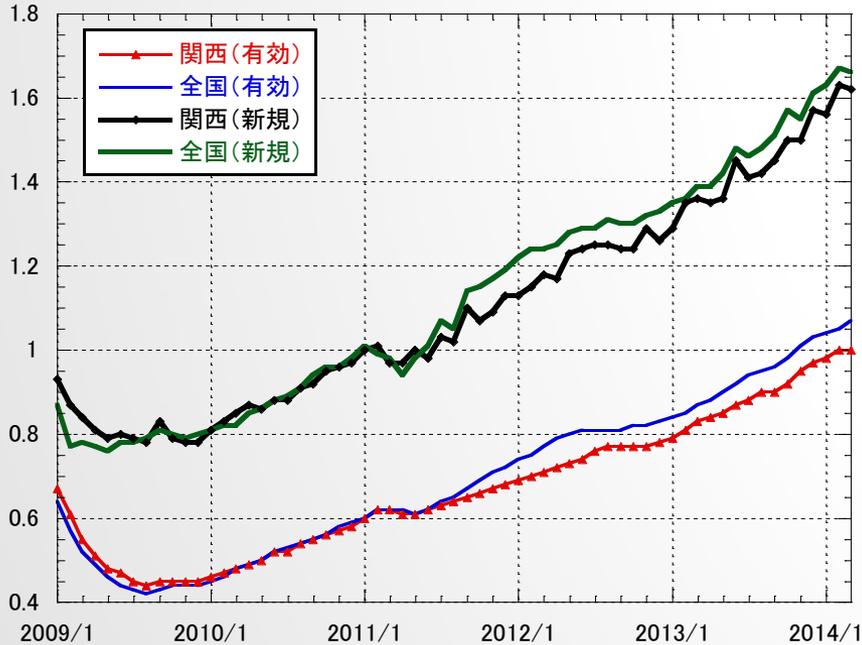


(出所):国土交通省「住宅着工統計」(平成26年4月30日公表)

- 関西の3月の新設住宅着工戸数は11,170戸。前年同月比+2.5%と2カ月ぶりに上昇した。持家や分譲一戸建てを中心に駆け込み需要の反動減が本格化しているものの、貸家と分譲マンションの好調に支えられ、全体としては続落を回避した。
- 利用関係別にみると、持家は同-15.7%と2カ月連続のマイナス、分譲は同+1.4%と2カ月ぶりに小幅改善(うちマンション:同+15.3%、一戸建:同-12.0%)。貸家は同+22.9%と8カ月連続の増加となった。
- 一方、全国の新設住宅着工戸数は同-2.9%と2012年8月以来19カ月ぶりに下落に転じた。
- 3月の関西マンション契約率は75.9%(季節調整値、APIR推計)と好調を維持している。

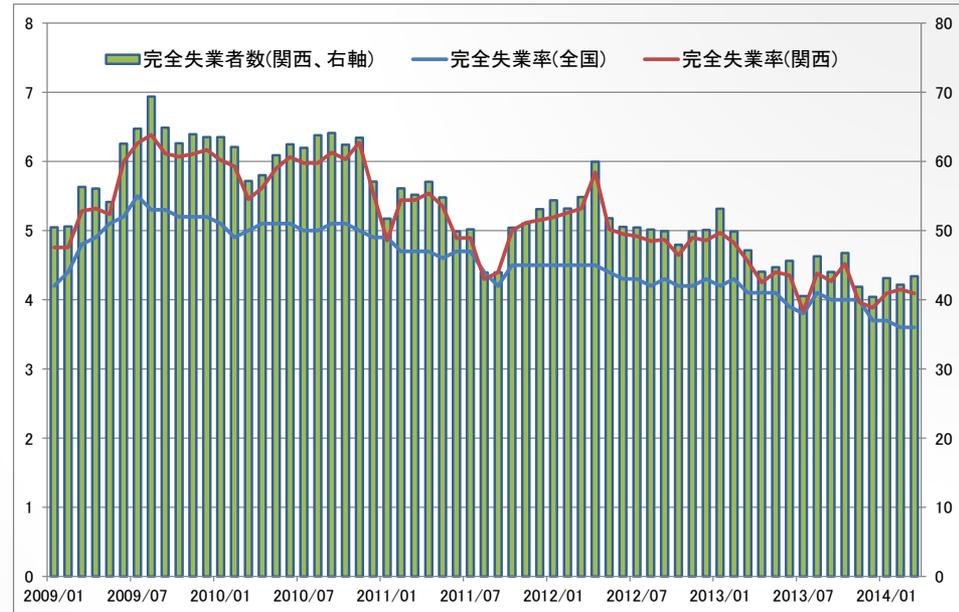
# ～雇用～

有効求人倍率の推移（季節調整値、2014年3月まで）



(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」(2014年5月2日公表)

完全失業率の推移（季節調整値：％、2014年3月まで）



(出所) 総務省「労働力調査」(2014年5月2日公表)

関西2府4県有効求人倍率(2014年3月)

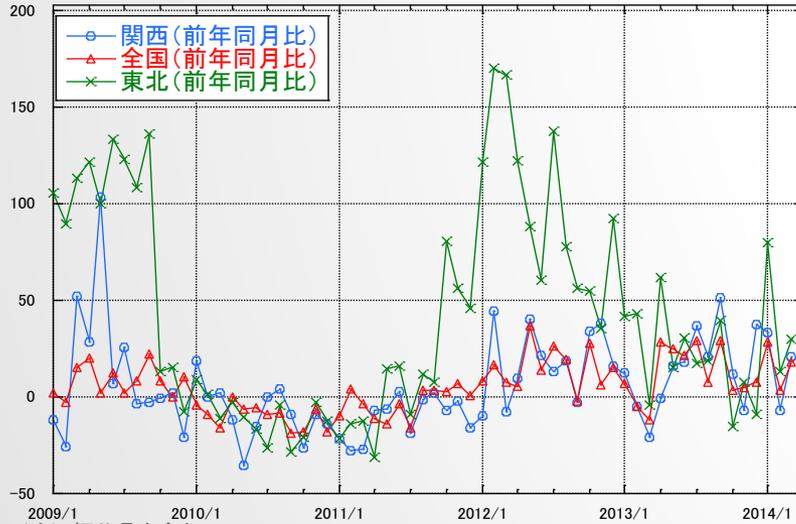
	全国	関西	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県
3月	1.07	1.00	0.93	0.99	1.11	0.85	0.88	0.98
2月	1.05	1.00	0.94	0.98	1.10	0.86	0.93	0.94

- 3月の関西の有効求人倍率は1.00倍、前月比横ばいとなった。
- 全国は1.07倍で、前月から0.02ポイント上昇。2011年5月から上昇トレンドにある。
- 3月の新規求人倍率は、関西は1.62倍と前月より0.01ポイント減少。全国は1.66倍と同0.01ポイントの減少となった。
- 関西の有効求人倍率を府県別に見ると、大阪府は1.11となり、先月に引き続き全国平均を上回っている。その他の府県は全国平均を下回った。

- 3月の関西の完全失業率（季節調整値：APIR推計）は4.1%となり、前月比で横ばいを維持。
- 全国の完全失業率（季節調整値）は3.6%となり、前月比横ばい。
- 関西の完全失業者数(季節調整値：APIR推計)は43.4万人。前月から1.2万人増加した。

# ～公共投資～

公共工事請負額(前年同月比:%、2014年3月まで)



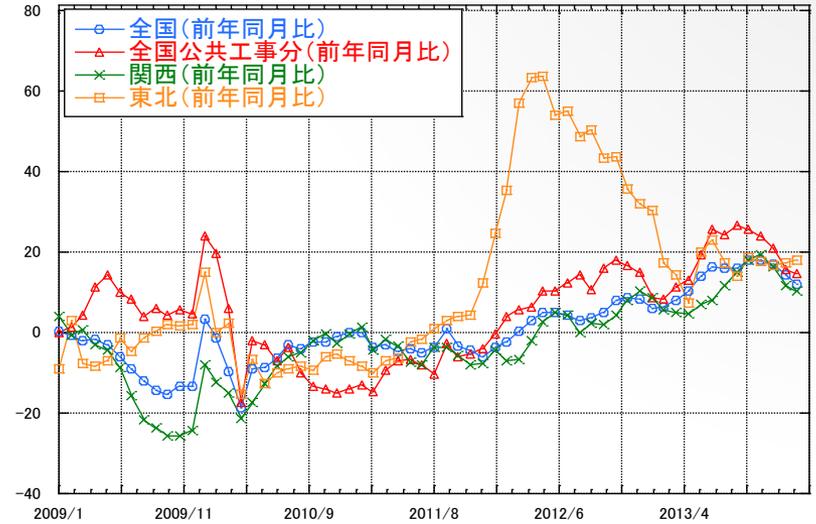
2009/1 2010/1 2011/1 2012/1 2013/1 2014/1

(注) 福井県を含む。

(出所) 「公共工事前払金保証統計」、東日本建設業保証株式会社

- 関西3月の公共工事請負金額は1,322億円。前年同月比+20.8%と2カ月ぶりのプラス。
- 全国は1兆4,568億円と同+18.1%と12カ月連続のプラス。
- 東北は3,175億円で同+30.1%と、3カ月連続のプラス。
- 季節調整値(APIR推計)で見ると、関西は3カ月連続の前月比マイナス(関西：同-17.1%)、全国は2カ月連続の同マイナス(全国：同-5.9%)となった。
- 結果、1-3月期の関西の公共工事請負金額は前期比-17.3%の大幅減、全国は同+0.6%の微増にとどまった。
- 2013年度の公共工事請負金額は対前年度比で、関西(同+18.0%)、全国(+17.7%)、東北(+22.2%)のいずれも増加。

建設工事(前年同月比:%、2014年2月まで)



2009/1 2009/11 2010/9 2011/8 2012/6 2013/4

(出所) 国土交通省「建設総合統計」

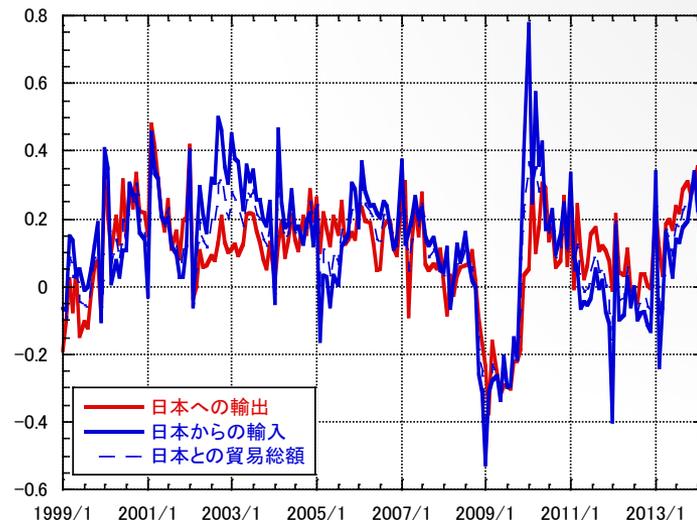
- 関西における2月の建設工事は5,853億円。前年同月比+10.5%と22カ月連続のプラス。ただし、伸び率は11月をピークに3カ月連続で減速。
- 東北は5,465億円と同+18.2%となった。31カ月連続のプラス。
- 全国の建設工事は4兆6,070億円となり、同+12.1%と24カ月連続のプラスも、伸び率は4カ月連続で減速
- 全国の建設工事(公共)は2兆1,238億円、同+14.7%と25カ月連続のプラス。いずれの地域も、建設工事の伸びは堅調に推移しているが、減速感が見られる。

# ～中国経済動向①～

中国製造業購買担当者景況指数 (2014年3月まで:%)



日本との貿易 (前年同月比; 円ベース) (2014年3月まで:%)

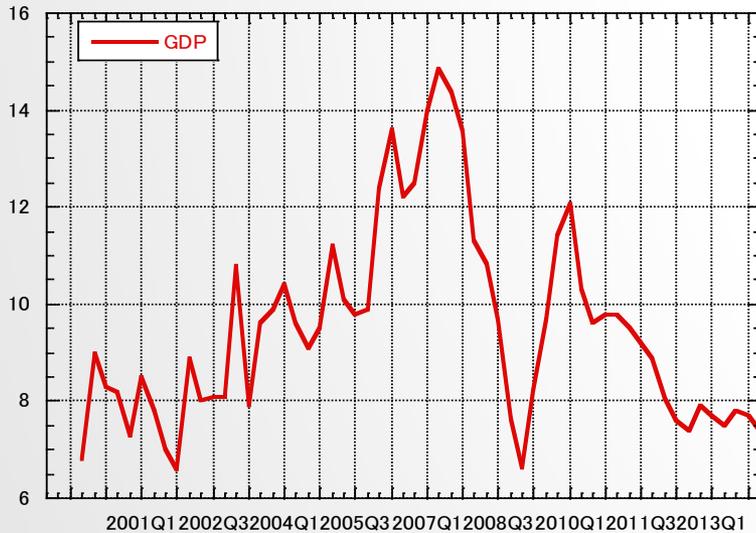


- 製造業の購買担当者景況指数(PMI)は、2014年3月に50.3となり前月比+0.1ポイント、4カ月ぶりの小幅上昇。
- うち、生産指数は52.7となり、前月比+0.1ポイントと4カ月ぶりに改善。輸出新規受注指数は同+1.9ポイント大幅上昇し50.1となった。4カ月ぶりに50を上回った。新規受注指数は50.6となり、同0.1ポイント上昇(2カ月ぶりの好転)。雇用指数は同0.3ポイント上昇し48.3となったが、2012年6月以来、22カ月連続で50を下回っている。
- 3月の製造業PMI指標の改善は、中国の春節の影響が解消し、労働需要が幾分増加したものと思われる。

- 中国の輸出額(速報値、ドル・ベース)は3月に前年同月比-6.6%減少し、2カ月連続のマイナス。一方、輸入額も同-11.3%(速報値)となり、8カ月ぶりのマイナス。
- うち日本への輸出額は同+11.0%となり、前月(同-11.0%、確定値)からプラスに転じた。一方、日本からの輸入額は同-0.6%となり、5カ月ぶりのマイナス。伸びは前月(同+9.2%)から大幅に減速。円ベースに換算すると、日本への輸出額は同+19.8%(前月-2.5%)と大幅なプラスになった。日本からの輸入額は同+7.2%(前月+19.7%)と12カ月連続のプラスとなった。

# ～中国経済動向②～

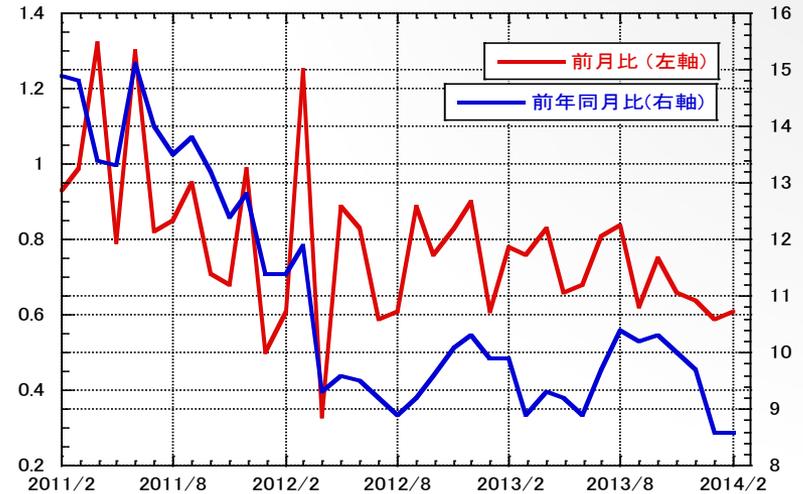
中国実質GDP成長率  
(2014年第1四半期まで; 前年度同期比: %)



出所：中国国家统计局; CEICデータベース

- 2014年1-3月期の実質GDP成長率は前年同期比+7.4%となった。前期の同+7.7%と比べて幾分減速し、8%を下回る成長率が8期続いている。
- 業種別にみると、第1次産業の成長率は同+3.5%、第2次産業は同+7.3%、第3次産業は同+7.8%となった。

工業生産動向(2014年3月まで: %)



出所：中国国家统计局; CEICデータベース

- 3月の工業生産は、前月比+0.8%と3カ月連続で加速した。前年同月比で見れば、3月は+8.8%と前月(+8.6%)より幾分拡大し、2カ月ぶりに加速。
- 産業別に見ると、パソコン・通信製造業(同+15.3%)、医薬製品製造業(同+12.6%)、自動車製造業(同+11.7%)、化学原料・製品製造業(同+11.5%)が高い伸びを示す一方、鉄鋼などの製錬・圧延加工業(同+7.9%)、繊維工業(同+6.1%)、電力・熱力生産・供給業(同+4.1%)の伸びは比較的低調であった。